

腎細胞がんの凍結療法

—大分県初の新たな癌治療を開始—

大分大学病院

放射線科

腎臓外科・泌尿器科

浅山良樹、高司亮、島田隆一

秦 聡孝、三股浩光

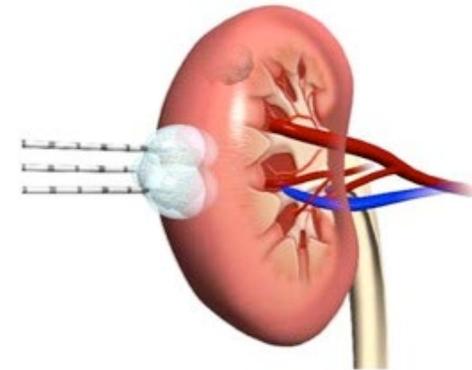
腎細胞がんの凍結療法

◆ 特徴

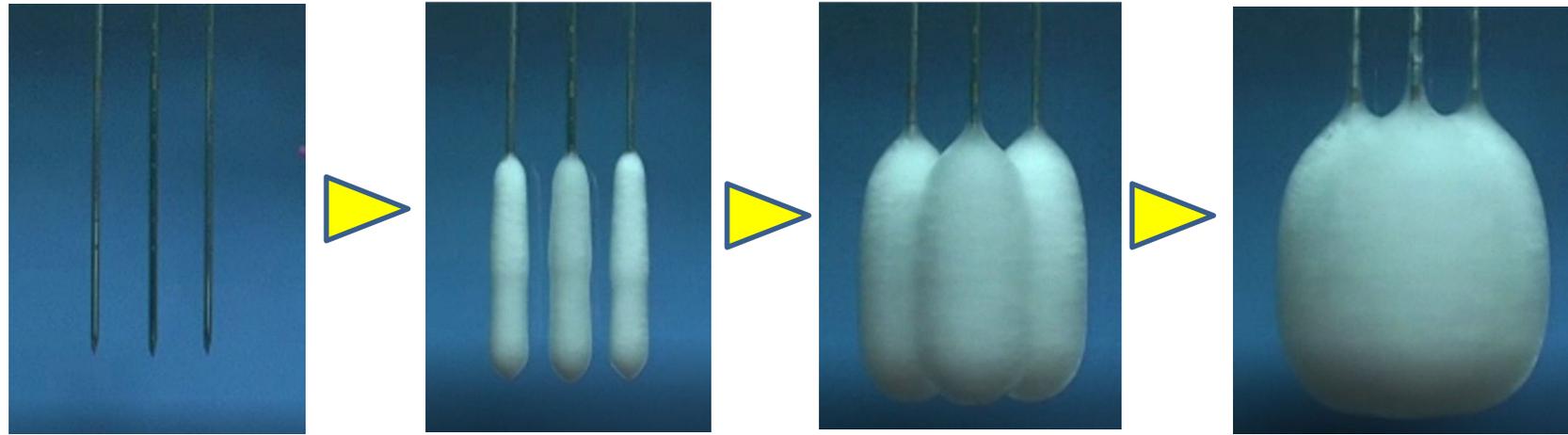
- 保険適応(4cm以下)
- 大分大学病院(2022年5月～)
- アルゴンガスを使い針の先端を急速冷凍
- 体表の傷が小さい
- 痛みが少ない
- 腎機能を温存できる
- 局所麻酔で行う
- CTガイド下で行う
- 施行時間:2～3時間
- 入院日数が短期間(7日+α程度)

◆ よい適応

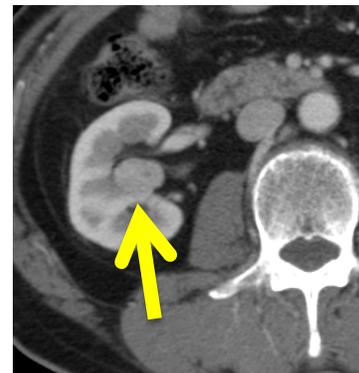
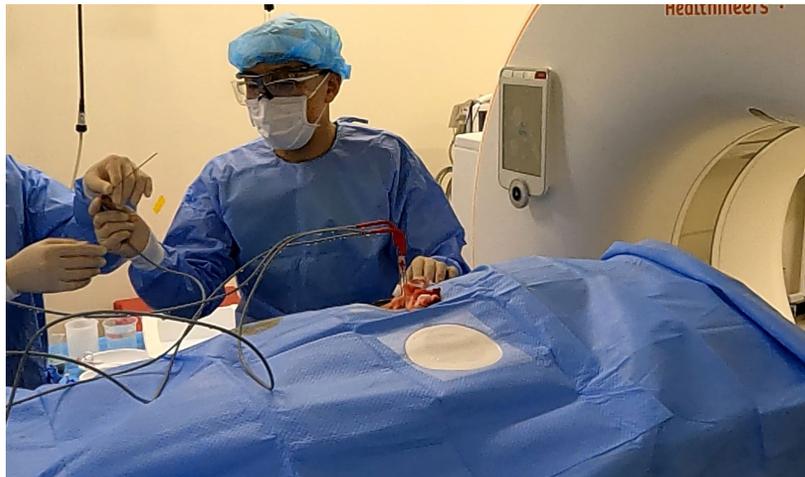
- 高齢
- 単腎
- 腎門部・埋没型
- 腎機能低下
- 多発症例(von Hippel Lindau病)
- 合併症がある方(心疾患、肺機能低下)



氷ができる様子



実際の症例



治療前



1ヶ月後



1年後